

(別紙2)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472800610		
法人名	有限会社桜の里		
事業所名	グループホーム桜の里 みなみユニット		
所在地	519-0435 三重県度会郡玉城町矢野字上荒木139番地3		
自己評価作成日	令和 2年 12月 30日	評価結果市町提出日	令和3年 4月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2472800610-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	評価認証推進機構株式会社
所在地	三重県四日市市八王子町439-1
訪問調査日	令和 3年 2月 17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境に事業所があり、近隣には、保育所や小学校もあり、園児の散歩コース、小学生の通学路にもなっている。南側には大きな窓があり、季節を感じる事が出来、安心して穏やかに暮らしていただけるように、入居者様の生活歴やご要望を理解しご家族様と協力してサポートしている。当施設では、ターミナルケアもしており、主治医・訪問看護師やご家族様と連携のもと、ご本人様、ご家族様の要望に応えられる様、職員が一丸となって努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

木のぬくもりが感じられる、広々とした共用スペースにある大きな出窓の窓際では、利用者が気持ちよさそうに日向ぼっこをしながら談話をする姿が見られ、隣の保育園児の散歩時には利用者が笑顔で手を振る光景も見られる。2003年に事業を開始しており、利用者の身体機能も低下傾向にあるが、理念の「あ・き・ら・め・な・い」意識をもって、職員一丸となって努力も工夫を行いADLの低下を防止し、利用者にもぬくもりを感じられる居場所を提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時のオリエンテーションでは、当社の理念から説明している。日頃から「あきらめない」をモットーに職員全員で入居者様の支援に努めている。	理念の「あ・き・ら・め・な・い」をモットーに職員全員で利用者のできなくなったことをあきらめるのではなく、工夫や努力を行うことで身体機能を低下させることなく、利用者のその人らしい生活の維持を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス自粛期間にて、参加出来なかったが毎日近隣保育所の園児さんの散歩に窓越しで手を振ったり、通って行く時間を楽しみにされている	コロナウイルス蔓延前は、毎年保育園の運動会に招かれて参加し、地元の玉城祭りには、利用者も主体的に参加して作品展示を行った。近所の人や顔見知りの方が訪問することも多くあり、地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや地域の方々に認知症について知っていただくきっかけに当施設の行事に参加していただいたり、町内のイベントにも積極的に参加している。今年度は、コロナウイルス感染予防の為地域行事が中止しているので参加できなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回は必ず運営推進会議を開催していたが今年度はコロナウイルス感染予防の為3月、5月は開催出来ませんでした。緊急事態宣言後になってから、地域介護相談員と面談を行い入居者様の様子や施設内の活動報告を行っている	最近では開催を控えているが、以前は、活動報告を行い意見や要望を聞いて運営に活かすよう努めていた。現在は町からの資料提供が行っている。	以前から運営会議に家族が出席できていないため、家族の出席し易い日程を調整したり、家族の興味・関心の持てる議題を織り込んだり、議事録を郵送する等の方策の検討を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	転居された入居者様や他施設から転居された入居者様のお互いの情報交換を行っている。今年度は入居者様8名介護保険更新手続きにて認定調査があり、市町村担当者の方とお話しさせて頂く。	町の担当者から、事業所が持つ問題等の解決のアドバイスを受たり、問題はないかの確認をして貰ったり、面会制限の報告や届け出の相談を行い、また、コロナ関係等についての情報や連絡を貰っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の身体拘束勉強会はコロナウイルス自粛にて開催出来ず、書面を全職員が回覧している。何が身体拘束になるのか、ケアの中で職員間の話し合いを行っている。	身体拘束防止委員会を設立し、定期的に勉強会を実施している。玄関施錠は夜間のみ、ベッドは本人の動きを妨げない工夫を行って、職員全員が身体拘束を行わない取り組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時や更衣時、身体にケガや痣などが無いかをチェックし、虐待が見逃される事が無いようにしている。また、職員の入居者様に対する言葉使いや接し方に注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	その必要性がある場合は、話し合いをし、制度を活用する事も支援し行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書の内容を説明し、疑問に思われるところは質問してもらい、理解していただいてから同意をいただいている。また、後に疑問に思われるようなところがあれば、気軽に相談していただくように説明もしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成時に担当者会議を開催し入居者様やご家族様のご要望を聞かせて頂いたケアプランを作成している。管理者はご家族様への連絡の際に入居者様のご様子やご家族様からのご意見を聞かせ頂く様に努めている。	コロナ禍の影響で、面会時の家族意見を収集する機会は減ったが、メール等を利用して近況報告や職員の異動等連絡を行っている。家族からの要望には実現に努め、面会の要望については窓越しで行えるように対応した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	当社では職員全員が代表者や役員と個人面談を行い、職場の悩みや要望を聞き、管理者は職員からの意見や提案を聞き運営に反映できるように努めている。	職員各自からの意見が出しやすい環境にあり、勤務の希望は職員の生活スタイルに合わせて柔軟に対応している。会議の開催が難しい為、ケアについての意見もそのつど検討を行い、申送りノートで伝達を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者とは月1回役員会議で職員の勤務状態や当施設の現状を話合っ、職場環境の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が研修を受けれるよう努めている。コロナウイルス感染予防の為研修が中止、延期になったこともある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染予防の為勉強会や交流の機会も有りませんでした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族様、ご本人様にお会いし、ご本人様が困っている事、ご要望などを傾聴し、安心した入居生活が送れるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時にご家族様が不安に思っておられる事や要望等を伺い、これから共に入居者様を支えていけるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時にご本人様やご家族様の思いやご希望、生活等を話し合い必要に応じて他のサービスにも対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の暮らし方や、何が好きで何が嫌いかを把握し、共に過ごし支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様のご希望があれば、入居者様のお好きな食事を居室で食べて頂き、ご家族の時間を過ごされている。コロナウイルス自粛期間中は出来なかった。ご家族様からのご希望にて、ご都合のよい日に来て頂き、食事介助をして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お正月に自宅へ帰られた、入居者様も有りました。コロナウイルス感染予防の為、知人や友人の方々との面会やご家族様との外出も出来ませんでした。入居者様のご自宅から持って来られた携帯電話でご兄弟様やご家族様と連絡を取り合っている入居者様も居られます。	墓参りや施設送迎での帰宅や、馴染みの人の来訪等、これまでの馴染みの関係や習慣を継続できるよう支援してきた。コロナ禍以降は難しいが、お正月に帰省をしたり、毎月来訪される人には近況を伝えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の間人間関係や個々の性格について全職員が把握し情報を共有して、関係が上手く行くように職員が間に入ったり、共用スペースでの席などを調節している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご家族様にお会いした時に入居者のご様子をお伺いしている。コロナウイルス感染予防の為面会も出来ないとお話しされていました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様に出来るだけ寄り添い意思の疎通を図り、意思の疎通が困難な方でも表情や行動から一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。	入所前の調査から本人の思いや暮らし方の意向を把握している。意思疎通の図れない人も多いが、表情や家族の情報等から把握に努めている。お洒落好きの人に、職員が髪を染めるなどし、喜んで貰っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に、ご本人様、ご家族様から、これまでの生活歴や、生活習慣等をお伺いし、サービス利用に至った経緯の基本情報をもとに、職員全員で情報の共有し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりと向き合い、日常生活の中で出来る事を見つけ、生活のリズム・習慣を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様からは、日頃の関わりの中から意見や要望を伺い、担当職員のアセスメント・モニタリングや意見交換を基に全員で他に必要な支援が無い話し合い介護計画書を作成している。また、6ヶ月毎に介護計画書の見直し、変更を行っている。	介護計画の作成前に家族・主治医・現場職員の意見を聞き、カンファレンスを行って家族の意向や専門職の意見を反映した介護計画を作成している。モニタリングにて毎月チェックを行い、支援の充実を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や細かい気づき、職員が実践した事を介護記録に記入し介護計画の見直しにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナウイルス感染予防の為面会制限をしている期間があり面会が出来ませんでした。緊急事態宣言等が解除されてからご家族様が食事介助に来て頂いたり、毎週ひ孫様が面会に来られる等施設内でやっている。以前の様な外出は出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年保育園の運動会に招待して頂いたり、地域のボランティアの方がには当施設の行事にご協力頂いていました。コロナウイルス感染予防の為今年度は、出来ませんでした。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回訪問診療にて、委託医に診てもらっている。毎月1回専門医への受診される際はこちらでの様子等を書かせて頂いている。介護タクシー等を使わず、施設の車で送迎を行っている。	現在は全員が施設協力医を利用しているが、かかりつけ医希望者には、職員が病院まで送迎する。入所時には協力医と看護師と家族と職員とで面談を行い、安心して貰っている。協力医は24時間対応で往診を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護で、入居者様の様子や変化、職員が気づいた事等を相談し、情報の共有に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された場合は情報提供をし、入院中も面会に行き、入院中の様子を聞かせて頂き病院関係者との情報の共有を行っている。退院後、医療行為が必要になり、こちらでの生活が困難になった場合はソーシャルワーカー・ご家族様との面談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護指針を作成し、契約時にご家族様へ説明を行っている。終末期に入った場合、主治医、ご家族様、職員、関係者と話し合える場を設け、事業所で出来る支援に取り組んでいる。	入所時に重度化した場合の対応について嘱託医から説明があり、利用者が安心して終末期を迎えられるよう日頃から勉強会を行っている。終末期には、状態を細やかに観察して医師に伝え、医師・看護師・家族・職員のチームで、本人や家族に寄り添った支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナウイルス感染予防の為、講習会は出来なかった。急変時の対応については、職員に主治医へ連絡し、指示を仰ぐよう日々申し送っている。事故発生時には、事故報告書を作成して、その日の出勤者で話し合いを行う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナウイルス感染予防の為、避難訓練は出来なかった。避難経路や消火器の置き場所等職員間で話し合いを行っている。懐中電灯の置き場など、職員全員が把握している。	災害時のマニュアルや連絡網を作成し、昼・夜想定訓練を年2回実施していた。みなみ棟は、介護度が高く、夜間災害時には職員一人では対応が難しい為、近くに住む職員が駆けつけることになっている。	近くに駐在署はあるが、災害時に頼る事は難しいため、運営推進会議等で、町と相談をして地域との連携の取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの人格を尊重し、笑顔で穏やかに話かけるようしている。入居者様の尊厳を傷つけないよう、それぞれに合わせた支援を心がけている。	利用者一人ひとりの意思を尊重し、各人の気持ちに沿って、利用者が快く動けるよう心掛けている。表情を見て察したり、着替えは人目のないところで行ったり、できる範囲で同性介助を行うよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人様にいくつかの選択肢を提案し、自己決定出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れはあるが、一人ひとりのペースや希望を優先し、支援できるように職員全員、日々努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る方にはご自身でしていただき、自己決定が難しい方には、職員が用意する。女性の入居者様への身だしなみ等の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様一人ひとり食べ易い食事形態にして提供している。食後の食器拭きやお盆拭き等入居者様にしている。	以前は、毎月家族がお寿司を届けて一緒に食べたり、デイサービスで行事食を楽しんだが、今は利用者が好きな赤飯や炊き込みご飯を炊いたりし、利用者は食器や食卓拭き、野菜の下拵えや菓子作りに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分量・食事量を記録している。入居者様一人ひとりに合わせた、食事量の調節をしている。また、あまり水分を摂っていただけない方には、好みの飲み物を提供するように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を全職員は理解し、出来る方には自分でしていただき、難しい方には職員が行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様全員の排泄チェック表を作成し出来る限り、トイレでの排泄が出来るようタイミングを見ながら声掛けや誘導を個別に行っている。	トイレチェック表を活用し、おむつ、紙パンツ使用の人でもトイレで排泄が出来るよう支援している。女性は尿路感染症予防に陰部洗浄を行ったり、同性介助を配慮したりして、心地良く排泄できるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成して、一人ひとりの排便サイクルを把握し、排泄の状態によって水分量を増やしたり、乳製品を摂っていただく等便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分を伺いながら、良いタイミングで入浴して頂いている、午前・午後のご希望があれば対応している。	午前・午後に分けて入浴を行い、利用者の体調や気分に合わせて、できる限りその人の希望の時間・温度等にして、入浴が楽しめるよう支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に活動を促し安眠できるように支援している。夜間不安感がある時は事務所やフロアで職員と一緒に過ごしていただいたり、入居者様が安心して眠れるよう話を傾聴し、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様個々の服薬情報ファイルを作成し薬の作用、副作用、用法容量を確認できるようにしている。また、薬ケースの色分けをし、写真を貼り一人ひとり管理している。体調の変化があった場合は、主治医に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で個々の力を活かした洗濯たたみや趣味など個別支援を行っている。お天気の良い日には散歩に出掛けたりしている。入居者様と職員とで談話の時間を設けるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染予防の為出来ていない。	コロナ禍の関係で、以前ほど外出支援は行っていないが、天候の良い時には、散歩や畑での作業をしたり、庭に沢山の花苗を植えて花の咲くのを楽しみにしたり、ドライブでの季節の景色の変化を楽しんで貰うなど、戸外を楽しめるよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金は施設でお預かりしているが、ご本人様のご希望に応じて、ご家族様より、財布にお金を入れてもらいご自分で管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様のご要望があればいつでも電話が出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南側に面したフロアの大きな窓からは日光も良く入り、田園風景が見渡せる。一年中季節を感じる事ができる。室内には温度計、湿度計を用いて管理し、加湿器や空調を使用して居心地よく過ごせるように努力している。密を避ける為窓は少し開けている。	南側に面した共用空間はとても明るく、広々として開放感がある。陽当たりがよい分乾燥するため、加湿器等で湿度や温度を細やかに調節したり、季節感が感じられるよう壁面飾りを利用者に作成してもらい、居心地よく過ごせる工夫を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置き、畳のスペースや玄関には長椅子等もあり、日中思い思いに過ごしていただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご家族様の写真や好みの物を持って来て頂いている。個人の携帯電話も持って来て頂き連絡のやり取りはして頂いている。	居室には、使い慣れたソファ等の家具やテレビ、冷蔵庫を持ち込み、大きくなければ仏壇も受け入れて本人の馴染みのものをそばに置くことで、安心して居心地よく過ごせるよう工夫を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は全てバリアフリーになっており、各所に手すりが付いている。また、廊下の手すりを使い歩行練習等に活用されている。		